暁木会会員　各位

平成 23 年 9 月吉日
暁　　木　　会
http://www.gyoubokukai.jp/

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。
今回の暁木会ニュース第 20 号では総会報告に加え、大学からの研究報告や現役学生の就職活動の奮闘記などを寄稿して頂いております。また、同窓の第一線での活躍ぶりや、同窓会の様子について会員諸氏から寄稿していただきました。さらに、名誉教授櫻井春輔先生の土木学会功績賞受賞の報告もさせて頂いています。
なお、本編は白黒ですが、カラー版をホームページに掲載しております。写真等はそちらが見やすいので、右上の URL からご覧いただきますよう、お願いします。

平成 22 年度総会

平成 22 年度の総会を、大学の卒業式、終了式のあとに、例年通り湊川神社の楠公会館で開催いたしました。3 月 11 日に東日本大震災が発生したことにより、総会を開催するか役員メンバー全員で協議し、急遽「総会の予定通り開催と総会後の懇親会の中止」を決定しました。この決定は総会開催予定日の 1 週間前であり、その趣旨を神戸大学、顧問の方々に文書にてご連絡するとともに、暁木会の HP にも直ちにアップし会員の方々への周知とご理解を賜りました。改めて、感謝いたします。なお、卒業生・修了生に対しては、懇親会が中止となったことから、卒業祝として「記念品（シャープペンシルとボールペンの一体型）」を用意して、受付にて出席者全員にお渡ししましたので御報告いたします。
総会では、来賓紹介、会長挨拶の後、6 つの議案について全会一致で可決されました。今年度は会長に新制 23 回の井澤元博様、副会長に新制 27 回の小畑博之様、水口和彦様が選任され、就任の挨拶が行われました。議案の内容は HP の資料をご覧下さい。

■　東日本大震災被災者への黙祷

■　南部 暁木会会長　挨拶

日　時：平成22年3月25日 18:00～21:10
会　場：湊川神社　楠公会館
出席者：ご来賓(名誉教授、教官)　23名、会員　45名、卒業生・修了生　96名（合計　164名）
議　事：1　会務報告、2　会計報告、3　監査報告、4　会則改正、5　役員改選、6　予算案
次　第：・卒業50周年祝金贈呈（新制9回生　代表：田村健一郎様）
・暁木会賞：坂井勝哉様、KTC賞：大槻剛瑠様、市民工学教室賞：木村諒様
優秀修士論文賞：足立健様、古谷勇樹様、楠井彩子様、利波立秋様
・新会員歓迎の言葉：片山政和様C96
会員数：卒業・修了者：4,433人、会員数3,560人（平成23年4月1日現在）
H23年度役員　会長:井澤元博㉓、副会長:水口和彦㉘・小畑博之㉗、KTC副理事長:本下稔⑮、KTC理事:田中稔⑰、水池由博⑳、常任幹事:濱村吉昭㉝、伊藤裕文㉜、寺谷毅㉝、荒瀬義則㉕、野並賢96C、久保真成㊷、山口充㊷、古川雅一㊲、平岡明子㊸

■　新会員紹介

■　新会員代表挨拶　坂井勝哉様

■　卒業 50 周年祝金贈呈　⑨田村健一郎様

■　今年も華やかな同窓生が仲間入り

櫻井俊輔先生　土木学会功労賞受賞の報告

櫻井春輔名誉教授は、岩盤工学における第一人者として長年にわたり日本、および世界の岩盤工学における教育、研究にご活躍されました。その功績が認められ、本年 5 月 27 日に土木学会総会において、「功績賞」を受賞されました。この賞は、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の運営に顕著な貢献をされた方に授与されるものです。

つきましては、受賞をお祝いする会を下記のとおり開催予定です。なお詳細につきましては、後日暁木会のホームページにてご案内させていただきます。ご参加をお待ちしております。

1．日時　　平成 23 年 11 月 26 日（土）　12：00～
2．場所　　相楽園会館　神戸市中央区中山手通 5 丁目 3 番 1 号（兵庫県庁北側）
ＴＥＬ　078－341－1191

（文責：水口　和彦㉘）

訃報　　筧　源亮　名誉教授のご逝去を悼む

神戸大学名誉教授 筧 源亮先生（C②）におかれましては、平成 23 年 6 月 29 日ご逝去されました。享年 82 歳でした。

筧先生は昭和 29 年 3 月神戸大学工学部を卒業後、関西電力株式会社へ入社しました。同社水力計画課に在職中の昭和 36 年 8 月に米国コロラド州立大学大学院修士課程へと進学、昭和 38 年 8 月に同社を退職後も引き続き同大学院に在籍し、昭和 41 年 6 月博士課程を修了して Ph.D.の学位を取得しました。帰国後、神戸大学助教授を経て昭和 47 年 5 月に神戸大学教授に就任し、平成 6 年 3 月に神戸大学を定年退職するまで水工水理学、流体工学の研究･教育に従事しました。同年 4 月から平成 12 年 6 月まで株式会社ニュージェックの顧問を、さらに平成 12 年 4 月から平成 13 年 3 月の間、伊丹市教育委員長をそれぞれ務めました。

筧先生は河川や沿岸域の防災・環境対策を講ずる上で必要な乱流特性を解明するために、大気科学で発展してきた乱流計測を水流計測へと先駆的に導入し、水工水理学分野の発展に大きく寄与しました。さらに、流速計測の場を点計測から時空間計測へと展開するため、独創的なレーザー技術の応用や画像計測手法を開発し、世界中のさまざまな科学・工学分野で活用されるなど、可視化計測技術の原理となっています。筧先生を中心とする研究グループによって可視化情報学会が設立され、今日の大きく発展した同学会の礎を築きました。平成 2 年に可視化情報学会功績賞を受賞し、平成 7 年度には同学会長を務めました。

研究室においては、学生に対して深い愛情を持って接していただきました。毒舌を交えた独特の話術で学生を惹きこむとともに、実験という実体験を基本とした研究スタイルで、卒業研究のみならず人生のご指導をいただき、我々卒業生にとって大きな財産となっています。

このような筧先生のご功績とお人柄により、平成 23 年 6 月 29 日に瑞寶中綬章を受章されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（文責：浜村　吉昭㉝）

研究報告(河道内樹林の動態解析)

准教授　宮本仁志先生㊵

河川を河口から上流へ遡っていくと､河道内に大小さまざまな砂州が現れます｡その砂州の中には、「ここは本当に河川なの？」と見間違えるほどに、柳や竹などの大きな樹木やたくさんの草本が繁茂するところが見られます。このような河道内での樹林の発達は、ひとつには、人びとが安全・安心に暮らせるように時間をかけて流域整備をした結果、河川への流出特性がおおきく変化した帰結と考えられています。

近年､日本の多くの河川ではこのような河道の経年的な樹林化に悩まされています｡この樹林化は、大規模出水時に洪水の流下阻害となるため、河道管理において解決すべき治水上の課題となります。また、日本の河川が本来的にもつ沿川の生態環境や生物多様性を大きく変質させたため、河川環境保全の観点からの課題でもあります。この河道樹林化の機構についてはこれまで、おもに個々の河道区間における河川水理特性に焦点があてられて検討が進められてきました。例えば、ダムによる出水インパクトの機会減少や、土砂移動と植生動態との関係などです。しかしながらその一方で、最近のグローバルな気候変動予測から予想されるような、将来の大規模出水頻度の不確実性を考慮した河道内樹林の動態特性や樹林河道の治水評価に関しては未だ不明な部分が大きいのも事実です。

わたしたちの研究室では、道奥康治教授および明石工業高等専門学校の神田佳一教授の研究グループ、国土交通省姫路河川国道事務所とジョイントして、加古川を対象に河道樹林化の研究課題に取り組んできました。全体的な研究フレームとして、樹林化を①河川流量、②河川流動、③河床変化、④植生動態の 4 つの素過程の相互作用の帰結と考え、流量変動の不確実性を考慮した植生動態の確率モデルの構築を目指しています。これまで、①河川流量と④植生動態に焦点をあててモデルの全体的な枠組の構築をおこなってきました [1)]。そして、加古川の樹木繁茂区間を対象にモデルパラメータを同定し、提案するモデルが流量規模や河道断面の経年変化にともなう植生消長傾向をよく表現できることを確認しています。今後は、適切な河道管理を行うために必要な流域一貫の視座を導入するために、河川の水系ネットワーク構造を導入して植生動態モデルを流域全体に拡張する予定にしています。

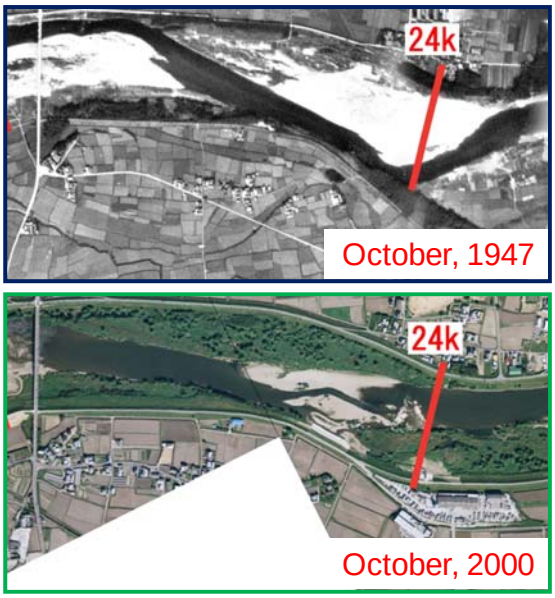


図　加古川23-24km河道での樹林化傾向
(国土交通省提供の航空写真を宮本が編集)

わたしたちの研究室では、ここで紹介した「河道内樹林の動態解析」のほか、揖保川を試験流域にした「流域河川水温のモニタリングと解析」や「流域の地形特性を軸とした社会環境と自然環境の総合評価手法の開発」など、社会基盤整備が介在した形での統合流域管理に関する研究課題を鋭意考究しています。

文献：1) 宮本・盛岡・神田・道奥・魚谷・大地・阿河: 流量変動のインパクトを考慮した河道内樹林動態の確率モデル, 水工学論文集, 第 55 巻, pp.S1405-S1410, 2011.

研究報告（波–流れ相互作用理論の新展開）

准教授　内山雄介先生

我々の研究チームでは，黒潮流路変動の解析，瀬戸内海全域の流動構造，大阪湾・播磨灘における海洋分散，海浜流の3次元構造の解析など，地球スケールから海岸スケールまで様々な海洋現象を流体力学的アプローチにより研究しています．今回は，その中でも，古典的な海岸工学の限界に対するブレークスルーとなることが期待される，波–流れ相互作用理論に関する研究について簡単に紹介したいと思います．

Longuet-Higginsによるradiation stressの発明は，海岸工学にとってエポックでした．Radiation stress（の勾配）は，運動量と圧力を平均流成分と波動成分の和で表現し，Reynolds分解を施して位相平均操作することにより出現する外力項として認識されます．WKB波動理論とのカップリングによる簡便な表記方法の提案などもあって，水深積分型の枠組みでは，surf beatに代表される長周期波動現象や，海浜流の予測，漂砂過程の記述などにおいて著しい成果をもたらしました．しかしながら，この枠組みを一般的な3次元流動場へ拡張する際には，radiation stressの鉛直分布を予め記述する必要があり，特に非線形性の強い砕波帯などではこれが事実上不可能であることから，長い間行き詰まっていました．これに対して我々は，運動方程式の非線形項の展開にHelmholtz 分解を用いてvortex forceの概念を導入した後に位相平均化操作を施すことにより，Stokes driftと相対渦度・惑星渦度との相関，Bernoulli head効果などの保存的運動量交換に加え，砕波や底面摩擦などに伴う波動場から流れ場への非保存的な運動量輸送などを独立に取り扱うことが可能な汎用的な枠組みを得ることに成功しました（Uchiyama and McWilliams, 2008; Uchiyama *et al*., 2009; Wier *et al*., 2011）．本理論とそれに基づく3次元海洋流動モデルは，radiation stressに基づく方法と比較して，砕波帯内の流れをより高精度に再現できることが明確に示されました（Uchiyama *et al*. 2010）．この枠組みにより，これまで再現が困難であった非定常3次元海浜流の時空間構造を精緻に解析することが可能となりつつあります．また，本理論は3次元性の正確な記述という側面に留まらず，地球自転（Stokes-Coriolis効果），Boussinesq近似の範囲での浮力効果，波動成分による底面摩擦から生じる運動量・質量輸送（bottom streaming）など，想定しうる海洋の力学を全て包含した理論となっているため，海浜スケールだけではなく，湾，海盆，地球スケールまで全てのスケールにおいて成立する，とても汎用性の高い枠組みであるという著しい長所を持っています．今後は，これまでほとんど調べられていなかった，メソスケール・サブメソスケールの海洋流動および乱流場に対する波浪の効果などを定量的に検証していきたいと考えています．

参考文献：

Uchiyama, Y. and McWilliams, J.C. (2008): Infragravity waves in the deep ocean: Generation, propagation, and seismic hum excitation, *J. Geophys. Res.*, Vol. 113, C07029, doi:10.1029/2007JC004562.

Uchiyama, Y., J.C. McWilliams and J.M. Restrepo (2009): Wave-current interaction in nearshore shear instability analyzed with a vortex-force formalism, *J. Geophys. Res.*, Vol. 114, C06021, doi:10.1029/2008JC005135.

Uchiyama, Y., J.C. McWilliams and A.F. Shchepetkin (2010): Wave-current interaction in an oceanic circulation model with a vortex force formalism: Application to the surf zone, *Ocean Modell.*, Vol. 34, pp.16-35.

Weir, B., Y. Uchiyama, E.M. Lane, J.M. Restrepo and J.C. McWilliams (2011): A vortex-force analysis of the interaction of rip currents and gravity waves, *J. Geophys. Res.*, Vol.116, C05001, doi:10.1029/2010JC006232.

東北地方太平洋沖地震　調査速報報告

准教授　鍬田泰子先生 C99

3 月 11 日に発生した東日本大震災では，16 年前の阪神大震災以上に地震・津波被害が深刻であり，わが国の地震防災対策のあり方に多くの課題を突きつけたといえます．地震直後から，私を含め市民工学専攻から多くの教員が災害調査に赴き，積極的に各方面への情報発信を行っています．ただし，16 年前との大きな違いは，被災地の中の大学や研究者の立場から被災地外から支援する立場に変わったことです．当時私は神戸大学におりませんでしたが，愛着のある神戸の被災に対し教員や学生が一丸となってボランティア活動や調査活動を取り組まれたと聞いています．今回，災害調査だけでなく被災地大学や学協会への支援や連携は，被災経験のある大学として我々に課された重要な役割といえます．

地震後から幾度となく，東北や関東の被災地へ足を運びました．今回の震災の特徴が広域災害，津波災害，原子力災害といわれるように，被災地では阪神大震災とは異なる新たな技術的課題が山積しています．職員 101 人が取り残された仙台の南蒲生浄化センターでは，10m を超える津波によってポンプ建屋の壁が反り返りました（写真-1）．これには改めて津波の威力に驚かされます．東京湾や利根川流域では，長時間継続する地震動や，繰り返される余震によって広域な液状化が発生しました．鰐川浄水場では建屋周りの液状化で地中配管の継手で脱管し，下位の給水地域では長期間の断水となりました．南海地震に備えてこれらの対策を講じておく必要があるといえます。

とくに長期停電の問題は深刻です．阪神淡路大震災の時にも停電しましたが多くの主要施設への供給は地震当日に復旧していました．その後に作成された地震災害対応マニュアルの多くは，停電しても自家発電が消耗するまでに電力供給が再開されることを前提としています．停電期間にも限界値があり，それを超えるとシステムの再起が困難になります．地震後の人命救助のタイムリミットと同様に水道，下水道，電気，ガスといった都市の生命線にもタイムリミットが存在すると考えられます．長期停電になると各施設や機器だけでなく，組織全体にも波及し，災害対応のシナリオ自体を変えなければなりません．電力がない中でできること，できないことを今回の被災地での対応で見極め，新たな災害対応シナリオとして拡充していく必要があります．

写真-1　津波の衝撃により壁が陥没（宮城県仙台・南蒲生浄化センター）

写真-2　施設一帯で液状化が発生（茨城県・鰐川浄水場）

スタートライン

サントリーホールディングス株式会社　中村曜子　C09

私は2009年にサントリーホールディングス株式会社に入社し、今春で３年目になります。在学中は、澁谷啓先生・加藤正司先生のもとで砂丘の安定性評価について学んでおりました。

首をかしげられた方もいらっしゃるかと思いますが、私は土木工学からは少し離れ、皆さんの日常生活に近い食品メーカーで勤務しています。弊社は酒類の製造・販売を中心に清涼飲料・健康食品・外食などの事業展開をしているサントリーグループの本体にあたり、私は人事部に所属しています。

人事､と言うと採用活動を思い浮かべられることが多いですが、入社後も人事イベントはたくさん発生します。異動､昇格､昇進､休職、退職…社員に対するこれらのイベントのサポートや、人事情報を管理し、有効活用する基盤を作ることが私の仕事です。

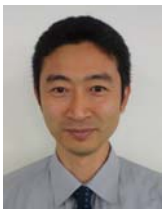
人事情報管理やその有効活用という表現はイメージが湧きにくいかもしれません。例えば、弊社には自分のキャリアに対する考え方や異動の希望を上司・人事部に伝える『自己申告』という制度があります。ＷＥＢ上のシステムを使い、与えられた質問に対して選択やフリーコメントで回答するものですが、私は主担当として事務局業務（質問項目の検討、ユーザーへのアナウンス、部内へのフィードバックなど）からシステム設計・設定までのすべてを行っています。この自己申告をはじめとして、人事面談から得た情報や評価結果なども参考に異動先は決められていきますので、社員にとっては自分の希望を伝える年に１度の機会であり、重要な仕事を任せていただいていると実感するイベントです。

どの会社でも同じだとは思いますが、スタッフ部門の仕事は社員がお客様です。収益や一般のお客様との直接的なつながりはありませんが､社員が安心してしっかりと働けるような環境を作ることに、私はやりがいを感じています。私が仕事において大切にしている姿勢は３つあり、１つ目は自分のしている仕事の意味を考えること、２つ目は相手の求めることを考えることです。ともすれば『作業』だと感じがちな業務でも、これらの姿勢を持って取り組めば『仕事』になります。作業と仕事は全く違うし、作業をしていてはだめだ、と入社当時は先輩によく言われました。３つ目は常に新しいことにチャレンジすることです。我が社には『やってみなはれ』という創業者の言葉があり、社員全員がその精神を大切にしています。挑戦を歓迎する風土があり、若手にもどんどん新しいことに挑戦させてくれる環境があります。その中で自分がどこまで成長していけるのか、不安もありますが楽しみに思っています。

私は2005年に神戸大学 建設学科 土木コースに入学し､３回生の後期から就職活動を始めました。３回生までに勉強した土木工学は知的好奇心を刺激するものではありましたが、日常との結びつきを実感することが少なく、仕事としてのイメージを持つことができていませんでした。その結果、現在の会社への就職を決めたのですが、４回生で自分の研究をするようになり、現場に足を運び自分の目で見て自分の頭で考える中で、多くの人が安全で快適な環境で暮らすための基盤となる学問、我々の日常を支える学問だということに改めて気付きました。先生や先輩方に熱心な指導をしていただき、充実した研究生活を送ることができた私は､大学院への進学に心が揺らぎさえしたのを覚えています。

大学時代に学んだ、勉強や研究に取り組む姿勢や理系としての理論的な考え方は今の私の基礎となっているもので、土木工学を学べたことは大きな財産だと思っています。少し離れた業界で働いてはおりますが、暁木会の諸先輩方のご活躍を微力ながら応援できればと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

現役最前線



地下空間の新たな活用に向けて

パシフィックコンサルタンツ（株）交通技術本部トンネル部　木谷努 (43)

1）はじめに：　神戸大学工学部及び神戸大学大学院で桜井春輔名誉教授（当時教授）、芥川真一教授（当時助手）のご指導のもと岩盤力学・トンネル工学を学んだ後に、パシフィックコンサルタンツ（株）に入社、トンネル部に配属になったのは1997年のことです。それ以来、途中3年間の（独）土木研究所トンネルチームでの専門研究員としての研究活動を含め、15年近くトンネル及び地下構造物に関する計画や設計、研究に携わってきました。ここでは、私が現在、取り組んでいるプロジェクトの一端を、紙面をお借りし紹介させて頂きたいと思います。

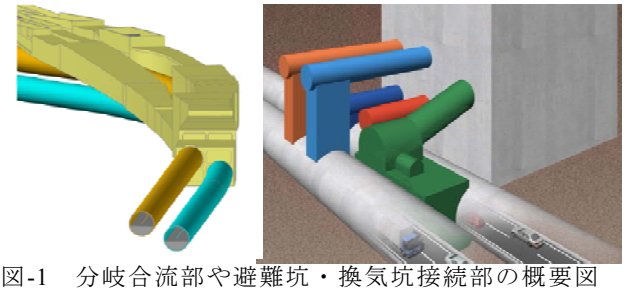


図-1　分岐合流部や避難坑・換気坑接続部の概要図

2）より複雑な構造ニーズへの対応：
用地条件が厳しい都市部の道路トンネルでは､分岐合流部や換気施設･避難施設も地下に構築する場合が多くなり、そのためトンネルを切り開き、それらの施設を地下で接続する特殊な構造が必要となっております（図-1)。これらの複雑な構造の設計手法は、未だ十分に確立されておらず、3次元シミュレーション解析等による様々な試行錯誤や実施工のフィードバックのもと、設計に取り組んでいます。

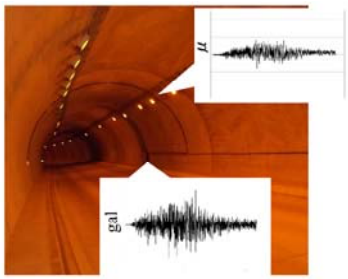


図-2　地震時挙動の計測･分析

3）円滑な事業実施への試みと大規模プロジェクトへの参画：
「大深度地下の公共的使用に関する特別措置法」は通常利用されない大深度地下空間を、公共の利益となる事業に利用するための要件や手続きを定めた法律（法律の初適用は、神戸市の事業（暁木会ニュース No.11 参照））です。私は、法策定時の技術検討から大深度地下制度に携わり、それ以来、制度運用のための検討を行っていますが、現在も法適用検討という通常の設計業務とは趣が異なった事業上流側からのアプローチで首都圏環状道路をはじめとする国家的大プロジェクトに参画させて頂いています。

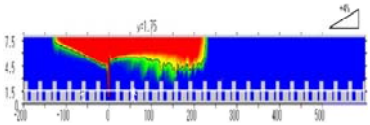


図-3　火災シミュレーション

4）安全性向上や効率的な維持管理：　トンネルは地震に強いと言われていましたが、実際に被災した事例も少なくなく、かつ、火災等その他への対応も特に重要な課題です。私は、既設トンネルの地震時挙動の計測・分析（図-2）等を行い、不明確であった山岳トンネルの地震時被災メカニズム解明を進めているところです。また、火災シミュレーション（図-3）を用いた安全な避難設備計画立案の試みにも参加しております。さらに、今後の維持更新時代の到来に向け、トンネルの変状対策工の補強効果に関する研究（図-4）や点検データの分析等を実施しています。

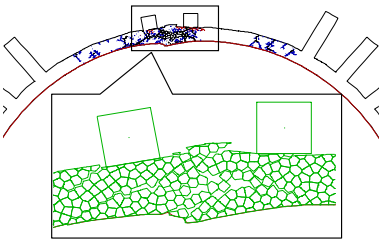


図-4　変状対策工の数値解析

5）おわりに：　以上、私が現在、取り組んでいるプロジェクトの一部を極簡単に紹介させて頂きました。新宿の職場から埼玉の自宅に辿り着いた時には、二人の子供達は既にはるか前に夢の中という多忙な日々を過ごしておりますが、とても充実しております。今後とも神戸大学で学んだトンネル工学の魅力、面白さを忘れず、より一層精進していく所存ですので会員の皆様のご指導ご支援をお願いする次第です。

私の学生時代

大阪市建設局道路部街路課　奥　兼治　C99

私は平成 7 年度（1995 年度）に入学、4 年間神戸大学にお世話になり、卒業して 12 年が経ちました。

大阪在住の私は、大学受験の際に「神戸大学に合格することができた暁には一人暮らしをする」という約束を親と交わし、一人暮らしの妄想をふくらましながら勉強に勤しみました。

喜ばしくも合格通知書を手に入れた私でしたが、（入学した年度を見てお気づきかもしれませんが）兵庫県南部地震の発生に起因する神戸市内の住宅事情の悪化により、一人暮らしを断念せざるを得なくなり、無念の 4 年間を過ごすこととなってしまいました。

学校のグラウンドにも仮設住宅が立ち並び、街を歩けば地震の傷跡が生々しく残っている、そんな時期でした。

私の学年前後では、土木専攻は「建設学科」の一部であり、1 年生の間は土木と建築の区分がなく、2 年生に進級する際にいずれかを選択するという仕組みになっていました。

ライフラインという言葉がマスコミを賑わし、社会基盤整備の重要性が再認識されている時期に（建築専攻への進級希望者が圧倒的に多い中、幸か不幸か）私には土木専攻の道が開かれました。2 年生に進級した際には土木専攻の男女比に愕然としたものです。

先生方からは「地震学年は出来が悪い」というレッテルを貼られながらも 4 年生になり、あこがれの C-1（櫻井先生）で学ぶことができました。無事に卒業、就職（のちに転職）となって現在に至ります。

ここまで当時の記憶を辿って書いてはみたものの、サークルなどに属していなかった私には講義以外では学校に用がなく、学校を離れてもアルバイトを熱心にしたわけでもない。あまり記憶に残るようなことをしていなかったようです。ただただ高校時代の同級生達と遊んでいました。

今になって振り返ると、大人のようで大人の責任は果たさない、そんな立ち位置が非常に心地よかったように思います。あの頃に戻りたいと感じることもありますが、私の子どもは小学校 4 年生を筆頭に 3 人。私が大学を卒業してからの年数（12 年）よりも、子どもが大学生になるまで（順調なら 9 年）の方が短いと思うと、年齢を重ねたものだと感慨深くなってしまいます。

子供が後悔のない学生生活を送ることを祈るばかりです。

現役学生生活紹介（就職活動報告）

大学生の就職難が深刻といわれる中、先輩である暁木会会員を頼って就職活動をされる大学生も少なくないと思います。暁木会会員に現在の大学生の就職活動状況について知っていただくことで、今後の大学生の就職活動の一助となればと思います。2 名の大学生の方の就職に関する思いを掲載させていただきます。

松山　航

私は学生時代に勉強した土木の知識を活かして、人々が幸せになってもらえることをしたいと考えていました．また，自らが発案し、成し遂げたものを形に残せる仕事に面白さを感じていました。なので、私は人々の幸せに貢献でき，意思決定者となれる公務員を志望致しました．一般的な公務員志望者の就職活動を見ますと，民間企業の結果が芳しくないために，公務員試験に転換される方が多いと思われます．または，公務員試験の面接対策のため，練習として民間企業の面接を受ける方もいらっしゃいます．私の場合は，公務員への強い魅力と効果的な時間利用の目的から,公務員試験だけを見据えて勉強しました．正直なところ,民間を受けている周りの友人が早々と就職活動を終えている状況を見ると，焦る気持ちも生まれました．ですが，焦りや不安を抱いても毎日が楽しくないですし，決して事態は好転致しません．なので，私は「自分を採用していただいたところが良いところ．公務員試験全てに落ちたとしても，それらは良いところではなかったのだ．自分が一生懸命なら何処か良いところがひろってくれるさ.」という楽観的な性格と，「自分が一度決心したことを最後までやり通したい」という信念によって自分を支えました．そして，研究室の先生方や学生の厚意にも支えられたおかげで，安心して公務員試験に臨め，良い結果を得られたと思っております．公務員試験は結果が出るまでに長い期間を要しますので，自分一人だけで闘うのは大変です．相談に乗ってもらえる方や，一緒に楽しく話してくれる方が周りにいてくださったことを，私はありがたく思っております．最後に，公務員試験を通して，モチベーションを維持するためには勉強と息抜きの両立を図り，毎日を楽しく過ごすことが大切であると感じました．

宮城　弘子

平成 22 年 3 月に市民工学科を卒業後､人々の暮らしの基盤である通信インフラを支える NTT 西日本に入社しました。NTT 西日本は「地域通信事業」を基盤に事業エリアである西日本全域で通信サービスを展開し、いつでも・どこでも・誰とでもつながることができる環境の構築を使命としている会社です。一般のお客様への飛び込み営業を通じてお客様のニーズを学んだ後、現在は通信設備の構築業務、保守業務に従事しています。

そもそも、NTT 西日本に入社するきっかけになったのは、就職活動で社員の方の生の声を聞き、お客様志向の事業方針と社員の方一人ひとりのビジョンや仕事に対する姿勢に惚れたことと、自分の就職に対する軸が合ったことです。何より社員の方の活き活きした姿が

決定打でした。
私の就職活動は、まず自分の就職に対する軸は何であるかを分析することから入り、その軸や自分のビジョンに合った会社を知ることから始めました。私の就職に対する軸というものは、「①人々の暮らしの基盤となるものを支えたい②主体的に行動できる③社員を大切にしていて、社員のみんなが活き活きして働ける」の 3 点でした。①の軸が早々から決まっていたため、鉄道・電力・通信系といったインフラ系に絞り、多くの説明会に足を運びました。そのため 3 回生の 12 月頃のスケジュール帳は、説明会の予定で真っ黒でした。②③の軸については、直接社員の方の生の声をお聞きしないと分かりにくいため、社員の方との対話に重点をおいて、言葉をよく聞き、雰囲気を読み取ることを意識しました。説明会の空き時間に社員の方をつかまえて、質問や相談をしたり、お話を聞く機会をつくってもらったりもしました。女性社員・男性社員・仕事一筋な社員・海外 MBA を経験された社員等、いろいろなタイプの社員の方から仕事に対する考え方を聞くことで、自分の就職に対する軸に合っているかを確認し、働くイメージのすり合わせを行いました。自ら積極的に働きかけることが苦手だった自分にとっては、慣れるまで時間がかかりましたが、徐々に自身で考えて動くことが楽しくなってきました。
こうやって就職活動をする一方で、大学の授業やアルバイトも並行して進めていたため、スケジュール調整や体調管理が上手くいかないことや、軸がぶれることが多々ありました。そういったスランプ時期には、同じ就職活動で悩んでいる大学の同級生や、教授や家族に相談に乗ってもらい、何度も助けてもらいました。またエントリーシートを書く時期には、どういった構成であれば熱意が伝わるのか、何度も何度も練り直し、同級生と意見を出し合いました。今振り返れば約 5 か月という短い期間でしたが、毎日悩んで苦しんだ結果、今の会社で伸び伸びと働けているのだと思います。
就職活動の目標地点は自分に合った会社に入社することですが、何かを目標にして達成するためには、自分一人だけの力では何もできず、人との協力や助け合いが必ず必要であることを、この就職活動で学びました。また、そのための貪欲な精神力と行動力も身につけることができました。こういった力を身につけることや人とのつながりを大切にすることは、現在の業務でも役に立っており、どんな職に就いたとしても大切なことだと思います。
最後に、就職活動を終えて今の自分がいるのは、いつでも相談に乗ってくれた同級生や教授、家族の力があったからこそであり、大変感謝しております。現在の業務に精一杯取り組み、日々精進することが、そういった方々への恩返しだと思っています。

支部総会の報告

暁木会は各支部でも活動を行っています。東京支部の総会が 6 月 10 日(金)に、広島支部の総会が 7 月 30 日(金)に、東海支部の総会が 8 月 6 日(金)に行われました。今回は東京支部の総会報告をさせて頂きます。

・東京支部報告

平成 23 年度暁木会東京支部総会を平成 23 年 6 月 10 日（金)、ホテルグランドヒル市ヶ谷で開催しました。来賓として大学より内山雄介准教授、暁木会本部より井澤元博会長にご出席いただき、また東京支部会員は新会員 1 名を含む 46 名が参加しました。

総会前に内山先生より「神戸大市民工学科における海岸・海洋研究の現状と展望」というテーマでご講演いただきました。

総会では長谷支部長のご挨拶に引き続き、通常審議が滞りなく審議され、この他に新支部長に時政宏氏㉓、副支部長に山下幸弘氏㉖が就任されたことを報告しました。また本年度 KTC 東京支部の幹事クラブとして無事に役割を果たしたことが報告されました。井澤会長よりご挨拶と本部の活動状況のお話しをいただいた後、最後に本部助成金目録の新支部長への授与をもって総会議事を終了しました。

さらに本年度の総会では、櫻井春輔名誉教授が土木学会功績賞を受賞されたことを祝し、記念講演を頂戴しました。講演にあたって二神種弘広島工業大学教授⑮にご紹介の弁を取って頂きました。

懇親会は冒頭に内山先生より大学の近況のご報告をいただき、山下新副支部長による乾杯のご発声により始まりました。途中、新会員の自己紹介をおりまぜ、旧交を温めるグループ、大先輩のお話に耳を傾ける若手などあちこちで歓談の輪ができました。中ほどでは、大林成行東京理科大名誉教授⑬の近況報告もあり、盛況な中、懇親会が終了しました。

平成 23 年度は新支部長、副支部長のもと、いっそう暁木会の活動の輪を拡げていきたいと事務局一同、考えております。どうぞみなさまのご支援、ご協力のほどよろしくお願いします。

（報告者　東京支部事務局　建設技術研究所　野村　貢㉜）

東京支部総会ご出席者

同窓会報告

・「軽部会開催の報告」

爽やかな初夏の日差しがまぶしい 6/4(土)に、工学部食堂 AMEC[3] で毎年恒例の軽部会を開催しました。門下河井先生の研究室所属の学生さんを含め、60 人あまりにご参加いただき、大変楽しい時間をご一緒させていただきました。出席者の中には遠路はるばる東京や広島から駆けつけた方や、親子 2 代で軽部研究室に所属された方もおり、先生を中心に門下生の輪が広がる会となりました。先生は昨年秋に体調を崩され、それ以来断酒をされているのですが、それでも切れ味抜群のトークはご健在、参加者との会話を楽しんでおられました。HP の同窓会報告でもたくさんの写真を載せていますので、是非覗いてください。

（文責：野並　賢 C96）

・土木工学科 9 回生卒業 50 周年記念　一泊旅行記

昭和 36 年（1961 年）3 月に、JR 新長田駅添の松野学者を卒業した私たち、暁木 9 回生 25 名は、今年、卒業満 50 周年を迎えました。森本君と中山君の 2 人のクラスメートとお別れしましたが、残る 23 名は、何とか元気に節目を迎えました。これを祝って、記念一泊旅行をやろうと云うことになり、関東・中部・関西在住の皆が集まりやすいように浜名湖岸の舘山寺温泉で、平成 23 年 5 月 12 日～13 日に 1 泊 2 日の集まりを持ちました。参加者は、青山、瀬川、加藤、北川、塩田、菅原、竹岡、田野、田村、豊田、中野、原田、福家、藤尾の各君 14 名でした。

第 1 日目は、14 時に JR 浜松駅前集合、出発、15 時に舘山寺温泉山水館欣龍着、手荷物を置いて、すぐ舘山寺観光に出発、当日はあいにくの雨でしたが、ロープウェイで見晴らしの良い山上へ、下山して、今度は浜名湖遊覧船で、周辺の風景の説明を聞きながら、鏡の様に静かな湖面をしばらく航海しました。17 時少し前に、再度、宿に入り、入浴をすませた後、18 時から祝宴を開始、入学当時の姫路での寮生活や、御影学舎での想い出話、それぞれに歩んできた 50 年の間の出来事、そして、今、孫が何人居てという話まで、話題は尽きることなく、約 3 時間の楽しい集いになりました。このあと、館内にあるカラオケル

ームで二次会が始まり、日頃鍛えたのど自慢で、皆が 2 曲 3 曲と歌って、大いに盛り上がりました。

第 2 日目は、観光バスをチャーターして、観光旅行。菅原、福家両君は都合により不参加になりましたが、残り 12 名で 9 時に宿を出発し、まず、浜松まつり会館と中田島砂丘の見学に、浜松まつりは、昼間は「ケンカ凧」とも云われる凧上げ合戦があり、一辺 2.9m もの大凧を揚げ、太さ 5mm の麻糸を互いに絡ませて、摩擦によって相手方の糸を切るという勇壮なもので、数百人が入り乱れて、競い合うものだそうです。夜になると、ベテランの弾き手がつま弾く三味線の音、きれいにおめかしした子供たちの笛とお囃子を合図に、絢爛豪華な御殿屋台が、各町から引き手に引かれて続き、絵巻物のような美しさです。会館には、実物の大凧と屋台が展示され、祭の様子を映像と音響で紹介していて、一度、本番を見てみたい気分にさせられました。中田島砂丘は、日本三大砂丘の一つで、広大な砂丘が広がっていましたが、湖の中にこんなに大きな砂丘が形成されるのはなぜと不思議に思われます。

次に、新居関跡、新居宿旅籠資料館を見学、新居関は、慶長 5 年（1600 年）に設置され、構内に渡船場があり、浜名湖を往来する旅人の監視と「入り鉄砲と出女」を取り締まっていたとのこと。明治 2 年（1869）全国の関所は廃止され、以後、小学校や役場として使われ、昭和 30 年（1955）国の特別史跡に指定され、解体修理を行い、全国で唯一現存する関所建物として公開されています。

次に二川宿本陣資料館、大名や公家など貴人の泊まる宿であった本陣は、旧東海道筋の宿場には２ヵ所しか現存していず、その１つが、この二川本陣で、江戸時代の情緒を感じさせ、庭も小さいながらもいろいろと趣向を凝らしていて、贅沢さを感じる空間になっています。これに隣接する庶民の宿、旅籠屋「清明屋」は、テレビや映画などでよく見かける風景そのもので、何か、親しさと懐かしさが流れていました。

次に有名な豊川稲荷へ参拝、昼食となりました。日本三大稲荷の一つである赤鳥居のお稲荷さんは「神社」とばかり思っていましたが、正式には、「宗教法人　豊川園妙巌寺」という曹洞宗の寺院で、驚くと同時に、自分の見識の浅さに恥じ入るばかりでした。広い境内や賑やかな門前町を見物し、14 時 20 分頃、バスは最後の見学地、名古屋城へと出発しました。

東名高速道を約 45 分走り、名古屋城到着、有名なあまりにも有名なお城で、もう何度か来たことがある人も居ましたが、ここでは、石垣研究家の加藤君が案内してくれると云うことで、皆一緒に見学することになりました。昭和 20 年（1945）5 月の空襲の際に建物のほとんどを焼失しましたが、残った 3 つの櫓、3 つの門が重要文化財として伝えられています。金鯱のレプリカが展示されていましたが、2 体あるうちの雄は高さ 2.621m、重量 1,272kg、金（18k）44.69kg だそうで、近くで見ると大きなものでした。名古屋城は、徳川家康が江戸に幕府を開いた後、東海道の要所として、また、大坂方への備えとして、慶長 15 年（1610）から 2 年間をかけて築城したもので、石垣等、随所に大坂城を凌ごうとする意図が見られます。

名古屋城見学の後、JR 名古屋駅へ向かい、17 時に楽しかった一泊旅行も終わりとなり、名残を惜しみながら解散となりました。

暁木 9 回生が、卒業満 50 周年を迎えるにあたり、暁木会から過分なお祝いを頂戴し、今

回の記念旅行に、ありがたく使わせていただきました。参加者一同、心からの感謝を申し上げます。まことにありがとうございました。

（文責：田村健一郎⑨）

大阪あかつき会　第 21 回例会開催ご案内

しばらく休会状態となっていました大阪あかつき会ですが、この度幹事団の若返りと運営方法の簡素化、また KTC のご協力を得て、継続することになりました。新体制で例会を計画いたしましたので、多数の方に参加していただきますようお願いいたします。
なお本案内は、新たに大阪府内在勤，在住の KTC 会員の皆様にも送らせて頂いています。

日　時：平成 23 年 10 月 7 日(金)　18:00～21:00
　　ご講演に引き続き例会(懇親会)に入ります。
場　所：道頓堀ホテル
　　大阪市中央区道頓堀 2-3-25　06-6213-9040
　　会場へのアクセスは下記の URL を参照下さい。
　　http://www.dotonbori-h.co.jp/index.html
会　費：5，000 円
講演者：関西学院大学教授　室崎益輝 様
講演演題：「関東・東南海大震災にどう備えるべきか」
事務局代表：㈱吉田組技術部長　北田隆久㉑
幹事会事務局：小畑博之 ㉗、大門芳一㉘

○ご出欠等について

本案内のメールアドレス(KTC 事務局内の下記 URL)に，タイトルそのままで直接返信頂きますようお願いします。

ktc-@mba.nifty.com
記入事項：お名前と御出欠。*e-mail アドレスが変更の場合はお知らせ下さい。

暁木会年会費納入のお願い

平成 15 年度から導入いたしました年会費につきましては、現在、1,000 余名を数える会員各位にご理解とご協力をいただいています。本誌をもってお礼を申し上げます。

しかしながら、暁木会の安定した運営を行うためには未だ十分ではありません。現在、KTC のメーリングリストや、クラス幹事、各職場の世話人を通じて会費納入の依頼を行っているところです。会費会員へのサービスとしては、暁木会ニュースおよび会員名簿の発行をさせていただいております。今回、会費納入の手続きが未了の会員各位には、手続き関連書類を同封させて頂いております。引き続きご理解とご協力お願い致します。

※年会費の集金方法につきまして、現在、集金代行業者（三菱ＵＦＪニコス株式会社）に委託し、会員の指定金融機関から年 1 回の自動引落しの制度を採用しております。

平成 23 年度の名簿発行について

平成20年度の総会で可決頂きましたように、収支バランスの都合等から暁木会会員名簿を2年に1回の発行とさせて頂いております。平成22年度に修正版を発行しましたので、今年度は見送らせて頂きます。ただし、住所登録の修正等は随時受け付けておりますので、変更がございましたら、お手数ですが巻末の連絡先か、KTC事務局（TEL:078-871-6954、FAX:078-871-5722、e-mail:ktc@mba.nifty.com）にご連絡いただけますようお願い申し上げます。なお、前項にも触れましたが名簿は会費会員にのみ送付しておりますので、この機会に会費のお支払いを是非ご検討頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

主な登録内容：①勤務先名称、②勤務先所属部署名、③勤務先役職名、④勤務先郵便番号、
⑤勤務先住所、⑥勤務先TEL、⑦勤務先FAX、⑧勤務先E-mail、
⑨現住所郵便番号、⑩現住所、⑪現住所TEL、⑫現住所E-mail

おわりに

最後になりましたが、業務多忙の折、執筆を引き受けてくださった皆様に心からお礼申し上げます。また、会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿などを募集しています。特に、同窓会をされた際には、ぜひニュースにその様子を連絡下さいませ。その他、ご意見等がございましたら、下記連絡先までよろしくお願いします。

発 行 者：暁 木 会
連 絡 先：常任幹事 平岡　明子㊸
大阪市建設局
TEL：06-6615-6835　FAX：06-6615-6583
E-mail：a-hiraoka@city.osaka.lg.jp
http：//www.gyoubokukai.jp